

研究実施のお知らせ

2022年1月6日 ver.1.1

研究課題名

慢性便秘症・S状結腸捻転症と腸管における α シヌクレイン発現量との関係についての研究

研究の対象となる方

2012年1月から2020年12月に島根大学医学部附属病院にて、慢性便秘症を原因とする結腸穿孔、またはS状結腸捻転を発症し、外科的手術を受けた方

研究の目的・意義

日本は超高齢社会を迎え、それに伴い認知症患者は2025年には700万人に及ぶと推定されています。Lewy小体型認知症（Dementia with Lewy Bodies; 以下DLB）は α シヌクレインが脳神経細胞や自律神経領域に多発する認知症疾患であり、その頻度は認知症の20%前後とされ、アルツハイマー型認知症に次ぎ、第二の認知症として関心が高まっています。その症状は中核症状の認知機能障害に加えて、パーキンソニズム、認知症症状、自律神経障害といった多彩な症状を示すことが特徴とされ、その症状の多彩さから診断に苦慮するケースもしばしば見受けられます。レビー小体型認知症について症状の出現時期を検討した結果によりますと、記憶障害の出現時期に先行して便秘（76%）、嗅覚障害（44%）、抑うつ症状（24%）、レム睡眠行動異常症（66%）、立ち眩み、起立性低血圧（33%）の順に症状が出現していたと報告されています。

特に頻度の最も高い便秘については、記憶障害がみられる約9年も前から症状として見られることがあり、これは腸の自律神経である副交感神経の内にLewy小体が発現したり、神経が変性していることが関わっていると考えられています。このため、腸管内容物の大腸通過時間が遅くなったり、直腸が収縮する力が弱くなったり、腹圧が低下したりする大腸遅延型便秘と、排便時に本来緩むはずの筋肉が逆に締まってしまう現象（奇異性括約筋収縮といいます）も加わる排便混合型を合併した便秘を認めると考えられています。こうして生じた便秘はしばしば重症化し、稀ですがS状結腸捻転を伴う閉塞性イレウスを生じることも知られています。

今回、私たちは慢性便秘症を原因とする結腸穿孔、S状結腸捻転を発症し、外科的手術によって切除された検体における α シヌクレイン（Lewy小体型認知症の発症に関係するといわれ、Lewy小体型認知症の便秘を含めた自律神経障害とも関係がある可能性のあるたんぱく質です）の発現を調査することを本研究の目的としました。

研究の方法

当院で2012年1月から2020年12月に慢性便秘症を原因とする結腸穿孔またはS状結腸捻転を発症し、外科的手術を受けた方の手術によって切除された検体を用いて α シヌクレイン免疫染色を行い、発現の有無を評価します。利用する情報は既往歴、内服歴、術前の臨床診断、手術所見と病理診断の所見です。

収集したデータは島根大学医学部内科学第二講座の外部から容易にアクセスできないパソコンに保管し、パソコンにはセキュリティを設定して、パスワードで使用可能な研究者を制限します。また、研究対象者の識別は研究用の識別番号により行い、その対応表は収集データとは別に施錠可能な場所で保管します。研究結果公表の際にも、個人の特定につながる可能性のある情報は一切用いません。研究に関するデータおよび関連資料は研究の終了を報告してから少なくとも5年間保管し、その後匿名化した状態で破棄します。

研究の期間

2021年3月25日～2024年3月31日

研究組織

この研究は島根大学医学部附属病院内科学第二が行います。

研究責任者（研究で利用する試料（検体）・情報の管理責任者）：
島根大学医学部附属病院 肝臓内科 片岡 祐俊

情報の利用停止

ご自身の試料（検体）・情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2022年8月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の試料（検体）・情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院肝臓内科 片岡 祐俊
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1
電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2187